ふくろう新聞

＜発 行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/fukurou/

新しい息吹に期待

新任職員辞令交付式

入居者の話を交え、大矢理事長より法人の理念について学ぶ新任職員

4 月 1 日、法人の辞令交付式があり、途中採用を含め 10 名の新任職員に辞令が交付されました。その後 2 日間にわたり、新任職員研修があり、法人の理念をはじめ聴覚障害者への理解、就業規則、感染症、接遇、法人内の事業の説明等多岐にわたり研修を行いました。研修終了後、新任職員からは、一人ひとりの生きてきた背景を考え、よりそった支援をしたい、こころ新たに与えられた仕事に挑戦したいとの意気込みが綴られました。

令和元年5月4日、神戸市にある兵庫県中央労働センターで神戸の施設建設推進委員会主催で映画上映会&人権講演会が開催されます。映画は東京大学精神科教授として、社会的な取組みを進めた先達者、呉秀三氏を描いた『夜明け前』。人権講演会は法人理事長と入居者の竹邊正晴さんによる講演です。ぜひご覧ください。

新任職員の抱負

入居者さん、職員の皆さんに対して、常に笑顔で接することを心掛けます。今後も小さなことを少しづつでも積み上げていきたい。
（総務　村井淳）

理念を念頭において、社会人としてのマナーをわきまえて、仕事に対して向上心を持ち頑張っていきたい。分からないことは聞いて理解して感謝の気持ちも忘れずにしたい。（調理職員　秦さなえ）

入居者さんへのアプローチがそれぞれ異なるので、きちんと貪欲に吸収し、環境整備として笑顔いっぱい環境つくりに頑張っていきます。（環境整備　庄崎隆志）

２日間で多くの話を聞いて自分の弱さを思い知りました。手話が難しくても何とかマスターしたいと思います。
（調理職員　灘千賀子）

いい勉強になりました。まだまだ手話が分からないので頑張って覚えたい。（生活援助員　坂本順子）

入居者さんとのコミュニケーションをとり、相手の気持ちをわかろうとすることが大切だと思います。まだ手話に対して苦手意識があり困難なことも多いですが、少しづつでも克服していきたい。職員間の連携も密にしたい。（生活援助員　酒井英雄）

手話で話せるようになることで、利用者さんが安心して過ごせる場を作りたい。ろうの文化や差別の歴史も知っていきたい。
（おのころの家生活支援員 山本成実）

おのころの家で働いています。私の作った食事もおいしいと言ってくれます。これからもみんなにおいしいと言ってもらえる食事を作っていきたい。（おのころの家　調理職員　大向厚子）

利用者さんとは、手まねでコミュニケーションをとっていますが、これから一日一手話を覚えていきたい。
（おのころの家　指導員　富田博行）

入居者さんの気持ちを考え支援できるように頑張りたい。食事、入浴、排せつなどの介護の勉強をたくさんしたいです。
（生活援助員　楠本慎太朗）

正面から向き合って信頼を築きたい。ふれあいを大切にひとりひとり、その日、その日を大切にしていきたい。　（生活援助員　廣地美紀）

利用者さんの気持ちを受け止める受容ということが大切だと感じました。利用者さんをとりまく環境に目を向け、気持ちを理解するよう心がけていきたい。（デイサービス桜ヶ丘 看護師 溝渕智代）

ふくろう物語
太田　満穂子さん

▲10 月ふくろうふれ愛まつりに訪れたご主人と

太田満穂子さんは、大正13年4月23日生まれの94歳です。七人姉妹の長女で、満穂子さんだけ難聴でした。父親が満州鉄道に勤めていた関係で満州で生まれ、大連市のろうあ学校に通っておられました。そこでは口話教育が中心で、とても厳しかったそうです。ご主人とも満州のろう学校で出会われ、親しくされていたそうです。18歳でろう学校を卒業後、洋裁学校に3年間通い、21歳の時に独立し、家で洋裁の仕事をしていました。しかし日本が敗戦をむかえると、知り合いが目の前で殺されたり、突然家に押し入った兵士に乱暴されそうになったりと、大変な経験をされたそうです。

ご主人と再会・結婚へ

帰国後、鳥取で生活されていましたが、大阪で開催された全国ろうあ者大会でご主人と再会し、30歳の時結婚されました。ご主人は優しい方で、二人でよく旅行に行かれ、飛行機で北海道に行ったことをいまでもよく覚えておられます。

結婚後はご夫婦で洋服の仕立ての仕事をずっとされていました。ご主人の背広もミシンで仕立てたと話されます。晩年はパッチワークなどもされておられました。

神戸で暮らしてからも、阪神淡路大震災で、住んでいた家が倒壊したために避難所生活となり、生活物資はもちろん、必要な情報もろう者であるためなかなか入らず大変な思いをしたと話されます。

ふくろうの郷への入所
ご主人の来訪を楽しみ

平成30年2月に脳梗塞を発症し、4月に退院できたものの寝たきりの状態になりました。ご主人もお世話が難しいため、ふくろうの郷に入居となりました。普段は車いすでの生活ですが、自分で食事をとり、同じテーブルの皆さんとテレビを見ながら楽しそうにおしゃべりをして過ごされています。今では難しくなりましたが、「また、縫い物をしたいなぁ」と話されます。ご主人から満穂子さまを気遣うお手紙もたくさん届きます。「暖かくなったら温泉に行きましょう」との手紙に、とても嬉しそうにされていました。

（生活援助員　川満和則）

平成 30 年度ふくろう大学修了式

3 月 26 日、ふくろう大学の修了式が行われました。修了証と一緒に書道講座や絵手紙講座の作品集、作業のお給料などが、辻施設長から入居者一人ひとりに手渡されました。入居者の中には、涙を流して喜ばれている方もおられました。31 年度はふくろう大学に「ふくろうふれあい座」が開講予定で、ますます充実していきます。（中村久香）

ふくろう工房給与支払

ふくろう工房からは、工房でのちぎり絵や小物つくり等の作業、ユニットでのお手拭巻き、食器洗い、また見学者へのお話しなどに応じ、給与が支払われました。自分の頑張り、役割が認められ、給料としての形となりました。お小遣いとして、買い物等に使うことができると、みなさん大喜びでした。

▲代表して受け取る自治会長の吉見さん、副会長の黒崎さん

介護サポーター研修

3月10日（日）今年度2回目となるサポーター研修を開催しました。

「家族の介護が必要になった」「介護のボランティアをしたいけど、方法が分からない」「介護の仕事がどんなものか知りたい」等の方を対象とし、県の補助を受けて行っています。今回は8名の方が参加されました。車いすからベッドへの移乗、食事介助、コミュニケーション支援、おむつの着用についてなどを学んでいただきました。

聞こえない入居者との交流では、学んだ手話を使って自己紹介をし、「通じた」と喜ばれたり、入居者の被爆体験や家族や地域での孤立していた過去の話を聞いては涙されたりと、入居者の想いにも触れていただきました。また老人ホームはなんとなく暗いイメージを持っていたが、みなさん元気で明るく生活されており、イメージを一新したという嬉しい感想もいただきました。

施設として、介護現場で築いてきたノウハウを伝えていく社会的な役割はもちろん、ふくろうの郷の取り組みを知っていただくいい機会にもなると考えております。そのため今後も開かれた施設を目指して、様々な取り組みを行っていきます。

（施設長　辻　愛子）

▲説明を熱心に聞く受講生の方々

▲特別メニュー「いなり寿司」を希望。お部屋で楽しむ玉木さん

▲娘さんと一緒に「カプチーノ」でカフェオレを楽しむ北宿さん。言語聴覚士も見守りました

今日は特別の日「誕生日の外出」

▲居酒屋で大好きなビールを楽しむ石崎さん

▲仲良しの松崎さん、澤田さん。たくさんの料理を前にご満悦

◀花が大好きな山崎さん、梅田さん。イングランドの丘で満開のゼラニウムを眺めたり、ひつじに餌をやったりと久しぶりの外出を楽しみました。

八木さん歩行訓練

県盲ろう者支援センターの協力を得て、盲ろうの八木さんの歩行訓練を行っています。今回が3回目となり、ホーム内を自由に歩き回れることが目標です。八木さんの行動範囲もますます広くなっています。

お花見におしゃべりに笑顔の花咲く

4月3日、南あわじ市の八幡神社にお花見に行きました。天気もよく、参加者の笑顔も満開でした。

花見の後、マクドでお茶。手話での話も満開でした。

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

どんどん広がれ 輪っはっは♪

聞こえない・聞こえにくい子ども達とその保護者の交流会『第５回みんなあつまれ・輪っはっは』を３月24日に開催し、４家族12人の参加がありました。

みんなの成長が楽しみ

「こんにちは」と子ども達から元気に挨拶したり、保護者からも声を掛けてもらって嬉しそうです。作ったオモチャで遊んだり、自分たちで遊びを考えたり。分からない時は聞いたり、教えてあげたりと、交流会を始めて２年近くになりますが、色々な場面で子ども達の成長がみられます。保護者からは「子ども達が楽しく過ごしている間に、親同士がゆっくりと話しができるから良い」という声もありました。

保護者どうしの経験交流の場として

あわじ特別支援学校の山本先生からは『耳の構造・難聴について』お話しがありました。難聴シュミレーションを体験して、わが子の聴こえにくさを実感されたようです。また、子どもとの関わり方、まわりの人達の理解、進路等、普段の悩み事なども出され、保護者同士で経験をもとにアドバイスもされていました。今回初参加のご家族もおられ、「今まで情報がなく一人で悩んでいた。初めて難聴児をもつ保護者の方とお話しができ良かった。また参加したい」と感想を話されていました。（高木　恵理）

▲手作りおもちゃに挑戦する子どもたち

2019 年度 事業方針

聴覚障害者の地域での生活を支えてきたセンターの役割りを再認識するとともに、淡路島内の基幹相談支援事業所の設立により、聴覚障害者対応の専門的な相談機能を担うセンターとしての役割りの再発信を行い、行政や他の相談機関との連携により、きめ細やかな相談体制を考えていきます。

① 南あわじ市、淡路市での相談日を設ける
② 難聴者、難聴児への支援強化と居場所づくり
③ 各関係機関との連携強化

～要約筆記啓発講座　受講生募集～

要約筆記とは、話し手の内容をつかみ、それを文字にして伝える聴覚障害者のコミュニケーション保障です。今年度は下記の日程で講座を開講します。あなたも中途失聴・難聴者の方への文字で伝えてみませんか？

6月1日(土)～7月20日(土)　全8回
毎週土曜日　午前 10 時～12 時
場所　洲本市健康福祉館
申込締切5/27
お申込はセンターまで

センター事業を振り返り

意思疎通支援事業で手話通訳・要約筆記の派遣事業を行っていますが、通訳といってもただ、言葉と言葉をつなぐだけではありません。例えば、病院通訳では、患者の今の健康状態を聞いたり、また、「塩分を控えましょう」とは医師からもよく言われる言葉ですが、抽象的で意味を捉えにくく、その言葉の意味、塩分濃度のコントロールについて伝えていくためにはどうしたらよいのか、その伝えたことが高血圧を予防するために実際行使しなければ伝えたことにはなりません。そういった病気に関することを通訳現場から問題を拾い上げ、生活訓練事業の一環として社会生活教室を開催し学習の場を設けたり、また、伝えるためには通訳者の技術向上、通訳者を養成していく為に研修会を開催するなど、様々な事業と関連させ、今、何が問題なのかを把握し、安心して暮らせるように今後も事業の内容を充実させていきたいと思います。（楠本　恵利子）

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL　0799-28-0990
FAX　0799-28-0992

初めてのパステルアート教室（デイサービス桜が丘）

3月19日㈫、デイサービスに丸山景子先生をお招きしてパステルアート教室を開きました。パステルアートとはパステルクレヨンを茶こしで削り、削れた粉を指の腹で紙に塗って絵を描いていくという作品です。

今回は「おひさま」の作品を描きました。皆さん、初めての取り組みでしたが、手際よく楽しそうに取り組まれていました。「こんなん、初めてや。おもしろいなー。」「初めてさしてもらって、楽しかったわ。」という声が聞けました。また、普段あまり取り組みを積極的にされない方が、嬉しそうな表情で取り組まれていた姿が印象に残っています。また今回はおのころ家の利用者も興味を持って参加してくれました。完成した作品、一つひとつに作った人の個性が出ていて、男前なおひさま、かわいらしく優しいおひさま、若い子の感性らしく明るいおひさまなど素敵な作品に仕上がりました。パステルカラーの優しい色合いの絵が皆さんの心を温かくしてくれたように思います。是非またお招きをして参加していただけたらと思います。

（支援員　船越）

▲初めて取り組んだパステルアート
作った人の個性がでる素敵な作品ができました

2019 年度　各事業所の事業方針

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

社会貢献（おたがいさま中川原事業・ふれあい広場桜が丘）

① 「食での交流」孤食から共食へ　さくら食堂開設向けた準備
② 行事・イベントの実施・拡大　フリマを軸に地域住民とともに行事
③ 協力者体制の強化　地域の消防団等若年増とのつながり作りの取り組み
④ 運営面強化　現在地域内で特に困りごととなっている「付き添い」に関し、公的事業・制度移行も視野に入れ検討を進める

←昨年７月、わくわくフリマ

居宅介護支援事業所桜が丘

① 引き続き担当数４５件を目安とし最終的には４５～５０件で推移できることを目標とする
② 対象者が必要とする資源に対する情報提供・紹介
③ 研修に参加し自己研鑽に努める

デイサービスセンター桜が丘

① 稼働率７０％及び事業規模拡大
　定員１４名⇒　１７名地域密着型を目指す
② 事業規模拡大に伴い職員増を計画する
③ 利用者増のためにケアマネ事業所へ訪問
　ケア探しへの登録での広報
④ 個々の利用計画に基づき加算による収入増に努める
⑤ ふくろうの郷の職員研修へ参加

淡路聴覚障害者相談支援事業所

① 制度改正の情報をいち早く収集し柔軟に対応していく
② 法人内外との連携強化
　地域のニーズや課題を把握し、自立支援協議会に出し、社会資源の開発に繋げていく
③ 相談部会への出席及び外部研修への参加

就労継続支援Ｂ型事業所おのころの家

① 事業運営の安定化及び稼働率（目標値：９５％）
② 工賃増収（平均月額：18,000 円を目指す）
③ 「福祉農業」に向けての就労者等が主体となって経営・運営するふれあい農園で採れた新鮮な野菜等販売所、安心して働ける場の創出を目指す
④ おのころ屋店舗はふれあいセンターに移転準備

神戸事業所
共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デーサービスセンター
〒652-0897
兵庫県神戸市兵庫区駅南通 5-4 西高架下 16 号
TEL & FAX：〇七八・五七九・〇七五五

高齢化の進む地域での施設の役割

第7回新施設建設公開講座

3月9日の講座では「地域住民との取り組み」と題し、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターの管理者、濱田良介氏より、センターの成り立ちや事業内容等をお話していただきました。その後、新施設が地域とどんな関わり方をめざすかについて話し合いました。

「食堂を作りたい」「配食サービスをしたい」「料理教室」「居酒屋」「犬の散歩を代行で」「買い物ボランティア」「季節に合わせたイベント」「災害時の避難所に使う」等、高齢化の進む地域での施設の役割はなにか、自分が働くならどんな取り組みをしたいのか多様な意見がでました。テーマのとおり「地域と共に」歩める施設を目指したいと思います。

（眞木　崇江）

▲施設の役割について意見を出し合う参加者

◎公開講座　今後の日程
- 4 月 13 日(土) pm. 1:30～
- 5 月 11 日(土) pm.1:30～
- 6 月　1 日(土) pm.2:00～
- 7 月 13 日(土) 全通研ｱｶﾃﾞﾐｰ
- 8 月　3 日(土) pm.2:00～
- 9 月 14 日(土) pm.1:30～

会場：ピフレ新長田（JR 新長田駅前）

ふれあい喫茶の野菜販売

淡路・市原青空会の協力を得て行っている細田町の野菜販売も8回目となりました。野菜を並べ始めるとアッという間に人だかりとなるなど地域に定着してきています。「地域の顔」となれるよう頑張っていきます。

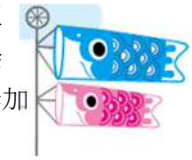
▲「今日はどんな野菜があるかな」
すぐに人だかりとなります

神戸施設建設募金
目標　1 億円!!

2019.4.1 現在　募金合計額
61,760,770 円
（プレート募金 164 人）
目標 1 億円まで、あと
38,239,230 円

4月・5月　ふくろうの暮らし

4/17～18（水・木）ダスキン研修生受け入れ
4/21（日）淡路聴力障害者協会総会
4/23（火）おのころ屋パン販売
4/26（金）ふくろう大学料理講座
4/28（日）ふくろうの郷地域交流会総会
5/4　（土）地域交流会手話講座開講
5/7　（火）誕生日会
5/10（金）ふくろう工房手芸
5/12（日）ひょうご聴障ネット総会参加
5/13（月）ふくろう理髪店・おのころ屋パン販売
　　地域交流会「地域を歩く」
5/14（火）ふくろう大学書道講座
5/17（金）ふくろう工房ちぎり絵
5/18（土）中川原小学校運動会参加
5/21（火）入居者自治会懇談会
　　ふくろう大学絵手紙講座



施設見学予定

5/22（水）NPO 法人西部ろうあ仲間サロン会様　30 人

見学者の感想

（社人権擁護推進協議会西脇部会長　長谷川芳孝様）

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター及び淡路ふくろうの郷を視察研修させていただきました。当日は、関係者の方や入所者との交流を通じて、「障害者と地域とのつながりの重要性やこれまでの障害者に対する現実の社会の姿を知ることができました。

今回、視察研修をさせていただいたことを、人権擁護委員として理解を深めるだけでなく、一人の人間として障害者に対する正しい理解を伝えていきたいと考えております。